

特集

五号館改修に見る、 学び方の進化

～内田洋行フューチャークラスルームラボ (FCR Lab.)～

五号館に一步足を踏み入るとそこに広がっているのは「未来の学修空間」だった。進化し続ける宮教大の今取材した。

取材担当：早坂 美幸



大学における施設整備の状況

平成三十年の十号館の改修を皮切りに、「東北の教育大学」として、IT化、バリアフリー化に対応した整備が進められた。令和六年に新学生寮が完成すると、予定された改修が終了することとなる。

その中でも大きく変容を遂げたのが、五号館一階に位置する「内田洋行フューチャークラスルームラボ (FCR Lab.)」である。一階の共同利用スペース1に足を踏み入れると、まず目に着くのは横幅六メートルにも及ぶ大型電子黒板のスクリーンである。そこに複数のデジタルコンテンツを同時に映し

出し、学修することが可能となっている。例えば、複数の画面を用いて様々な地域とオンラインでつながれば、そこにいながら実際に対面しているかのように情報や意見の交流ができることとなる。カラフルな可動式の座席もポイントの一つである。可動式のテーブルと椅子により、目的に合わせて学修環境を組み替えることができるのだ。全体からペアへ、グループへと即座に座席を移動し、学び合うことができる環境となっている。

この施設に対して命名権（ネーミングライツ）を募集したことも大学の革新的な取組といえる。令和四年七月に行われた株式会社内田洋



大型電子黒板を使用した学習の様子



多くのメディアの取材があった締結式 (令和4年7月7日)

行との締結式には多くのメディアが集まり、華々しい幕開けとなった。こうした取組は東北の国立大学では山形大学に続き二例目となっている。現在、教育の現場では、児童生徒に「情報活用能力」を發揮させることのできる教師が求められている。その人材を育成する場として大学と内田洋行の知見を活かし、様々な実践や教育方法の開発が行われていくことに期待が寄せられている。大学は引き続き他の施設でもネーミングライツ事業を募集している。より良い学修環境が学生に与えられることで、教育の未来が開かれるであろう。

FCR Lab. の活用

教科教育学域（技術科教育）教授
情報活用能力育成機構 副機構長
情報活用能力育成機構 情報教育研究推進室 室長
情報活用能力育成機構 情報基盤推進室 室長

安藤 明伸

一年生の授業の様子を紹介しますが、まだ模擬授業の段階ではありませんが、何ができるか試してみようということ、「自分の好きなものを伝えよう」という授業を行いました。自分でどのツールを使うかを考え、目的に合わせて活用することが重要となります。大型のスクリーンに景色を映し出せば、映画館のような迫力で自分の伝えたいことが豊かに伝えられます。電子黒板を使用すれば、話をしながら書き込みができる良さがあります。発表者の意図でツールを使い分け、スムーズに機器を使用するためには、練習が必要です。教育現場では、若いからすぐにICTを使えると思われることがあがるそうです。若いからできるかというところもろんそうではありません。今までICT教育を受けてこなかった学生たちもいるのです。現職の方々同様、機器の使い方を



画面に書き込み、説明を加える

学ぶ場が必要です。今、授業で使えるツールの選択肢が広がっています。チョークと黒板で教えることもあり、どちらがいいとか悪いとかの時代ではありません。自転車も乗れるまでに何度も転びながら小さな痛みを伴って習得していきます。こうした機器も何度も練習しながら、学んでいく点では同じです。自転車の補助輪がついていけば、練習せずとも済みますが、いつまでもそのままという訳にはいきません。補助輪が外れてこそ分かる便利さがあります。そして、

すべてデジタルがいいという訳ではありません。実は、自分の子どもには絵本を読み聞かせています。絵本アプリ等を与えてしまえば簡単ですが、子どもの気分に応じて読み聞かせ方を変えることはできません。一度デジタルに振り切つて効率的なことに価値があるか、デジタルだからこそできることを自分で選択できるようにすることが重要だと考えています。デジタルに振り切つて効率を追求していくと、改めてアナログの価値に気付くことができます。授業後の感想からは、使い方が分かっていても、本質が分かっていないと活用できないとの声がありました。それでは良い授業にならないのではないかと。教材研究などを通して本質的なことを学んでいかなければならないことへの気付きになったようです。例えば、OJTでは、経験のある先生から授業の本質を学び、デジタルツールを学んできた若者がそれを伝える。そうした一緒に学ぶことができる学校ができれば素晴らしいと思います。（まとめ・早坂）



FCR Lab.の全体像



ワイドスクリーンを活かした臨場感ある発表

やっと対面でできた同窓会



赤間 浩司
課程養成教員 養育保健
 コース 3年度卒
 実行委員長

昨年度担当の先輩から同窓会の世話を引き継ぎ、連絡を取っていた数名の同級生を巻き込んで実行委員会を立ち上げました。体育科の沼倉先生には本当にお世話になりました。

このコロナ禍の中、数年対面での同窓会を行うことができていないので、オンラインで行うのか、それとも対面で行うのか、手探りの話し合いを続けました。また、大学のホームカミングデーとの合同開催も模索し、一つ一つ課題をクリアしながら本番を迎えました。ホームカミングデーの企画としては、学生活動報告と改修されて美しく便利になった教室を巡る「宮教大ツアー」を行いました。

記念講演は同級生の若山 洋先生（東松島市立鳴瀬桜華小学校校長）に「Stand by you（特別じゃ

ない、特別支援教育の話）」という題でお話をいただきました。彼がこれまで関わってきた子供たちの様子や支援のあり方など、具体的な話に胸が熱くなりました。また、グループディスカッションの時間を多めに取ったことで、久しぶりに会った同窓生も、その日初めてお話しする先輩後輩同士も議論が白熱しました。事務的な面で支えていただいた学生課職員の皆様、運営に協力いただいた同級生、ご参加いただいたすべての皆様に御礼申し上げます。

（仙台市立荒井小学校勤務）



学生による宮教大ツアー

同窓会 & ホームカミングデー

ホームカミングデー



近藤 ゆき
課程養成教員 養育保健
 専攻 13年度卒
 国語教育

いただいた案内に懐かしい友人の名前を見付け、さっそく連絡を取って参加することにしました。

当日の会場は、大学時代に慣れ親しんできた五号館の一階。どのように改築されているのか、とても楽しみにして参加しました。受付では実行委員をしていた友人と、共通の友人やお互いの子供の話など、再会に話が弾みました。

会場に入ると、小さな机の付いた赤や黄色など色鮮やかな移動式の椅子が置かれた広々とした空間となっていました。FOR Lab.と呼ばれているスペースで、大学が企業と連携しているということに驚かされました。

学生報告は、吹奏楽部と軟式野球部から動画で活動の様子を紹介いただきました。特に驚いたのは、InstagramやTwitter、ブログなどのSNSを用いて、活動の様子を常に発信しているという点でした。私自身もサークル活動に勤しんでいましたが、活動の在り方も時代と共に変わっていくのだということとを強く感じたできごとでした。

残念ながら、同じ学年の参加者にはいなかったものもあり、他はよかったというのが素直な感想です。大学時代の楽しかった思い出が色鮮やかに蘇りました。会えていなかった大学時代の友人と、今年こそ連絡を取ろうと思います。

（宮城県仙台教育事務所勤務）



学生の活動報告

同窓会事業・会計・予算

令和3年度 庶務報告

- (1)総会開催 令和3年8月2日～20日 メール及び書面開催 (2)理事会開催 令和3年4月30日
- (3)総会実行委員会設立 平成2年度,平成12年度,平成22年度卒業生担当
- (4)会報「山にありて」33号発行 2,500部発行。令和3年度より電子版にアクセスしていただく方法に変更。紙媒体は入学生、卒業生、宮城県内の学校・教育委員会等に発送。
- (5)学年自主活動支援 学生の自主活動支援金として、1回目3団体、3回目6団体、合わせて9団体に合計221,069円を支援しました。

令和3年度 会計報告

単位(円)

- (1)会計期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日 (3)積立金 令和2年度末4,453,491円+令和3年度末940,281円=5,393,772円
- (2)収支概況 収入総額3,057,747 (4)財産状況(令和4年3月31日現在額) 現金・預金合計 5,393,772
- 支出総額2,117,466 現金 1,382
- 差引残額 940,281→積立金へ 預金 2,688,390 (ゆうちょ銀行 普通預金)
- 2,704,000 (ゆうちょ銀行 振込用口座)

(5)補足

- *会費収入について、令和2年度348名に対し令和3年度は318名(令和4年度入学者281名、令和3年度入学者29名、令和2年度以前入学者8名)で30名(240,000円)減となりました。
- *平成29年度同窓会総会での決定に基づき、平成29年度9月より、同窓会業務の一部を宮城教育大学に委託しています。
- *卒業記念品としてクリアファイル(5色)を作成し、令和4年3月の学位授与式にて学部卒業生および大学院修了生に贈呈しました。

1. 収入の部

項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	比較増減額	備考
1. 前年度繰越金	0	0	0	
2. 会費	2,400,000	2,544,000	144,000	318名×8,000円
3. 利子	18	25	7	
4. 積立金繰入金	513,722	513,722	0	
合計	2,913,740	3,057,747	144,007	

2. 支出の部

項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	32,300	29,468	△2,832	
(1) 事務費	0	7,544	7,544	
(2) 通信費	31,000	20,626	△10,374	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	1,300	1,298	△2	理事会湯茶
2. 事業費	2,781,440	2,087,998	△693,442	
(1) 総会費	0	0	0	
(2) 会報発行	203,000	225,940	22,940	山にありて33号2,500部
(3) 会員情報管理費	1,500,000	855,129	△644,871	データ管理、会報発送
(4) 学生活動援助	300,000	222,809	△77,191	2回、計9件
(5) 広報費	118,000	123,680	5,680	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,440	660,440	0	
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	100,000	0	△100,000	
5. 寄付	0	0	0	
(1) 学生支援事業全般	0	0	0	
6. 積立金	0	0	0	
小計	2,913,740	2,117,466	△796,274	
欠損金	0	0	0	
合計	2,913,740	2,117,466	△796,274	

【特別会計】

3. 積立金の部

項目	令和3年度当初	令和3年度末	比較増減額(△減)	備考
1. 積立金	4,453,491	5,393,772	940,281	令和3年度当初4,453,491円+令和3年度末差引総額940,281円=5,393,772円

令和4年度 事業計画

- (1)総会開催 令和4年8月6日 対面方式 (2)理事会開催 令和4年5月20日 宮城教育大学
- (3)総会実行委員会設立 平成3年度,平成13年度,平成23年度卒業生担当 (4)会報「山にありて」34号発行
- (5)学生自主活動支援 (6)同窓会ホームページ大幅リニューアル

令和4年度 予算

単位(円)

- (1)会計期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日
- (2)収支概況 収入総額2,710,000 積立金 5,083,772
- 支出総額2,710,000 残 額 5,083,772

*予備費を計上する目的
 予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動(支出)を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生(例えば震災)した場合に備えて「予備費」と計上します。10万円を超える予備費の執行に当たっては臨時理事会を開催して決着します。

【一般会計】

1. 収入の部

項目	令和3年度決算額	令和4年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	0	0	0	
2. 会費	2,544,000	2,400,000	△144,000	300名×8,000円
3. 利子	25	0	△25	
4. 積立金繰入金	513,722	310,000	△203,722	
合計	3,057,747	2,710,000	△347,747	

2. 支出の部

項目	令和3年度決算額	令和4年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	29,468	38,000	8,532	
(1) 事務費	7,544	8,000	456	
(2) 通信費	20,626	28,000	7,374	切手代、HP用レンタルサーバー代
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	1,298	2,000	702	理事会湯茶
2. 事業費	2,087,998	2,519,000	431,002	
(1) 総会費	0	50,000	50,000	講師謝礼
(2) 会報発行	225,940	226,000	60	山にありて34号2,500部
(3) 会員情報管理費	855,129	856,000	871	データ管理、会報発送
(4) 学生活動援助	222,809	300,000	77,191	サークル活動支援
(5) 広報費	123,680	125,000	1,320	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,440	660,000	△440	55,000×12ヶ月
(6) 事務局業務委託費	0	302,000	302,000	
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	0	53,000	53,000	
5. 寄付	0	100,000	100,000	学生支援協力金
小計	2,117,466	2,710,000	592,534	
欠損金	0	0	0	
合計	2,117,466	2,710,000	592,534	

【特別会計】

3. 積立金の部

項目	令和3年度末	令和4年度末	比較増減額(△減)	備考
1. 積立金	5,393,772	5,083,772	△310,000	HP用レンタルサーバー代及びHP作成費

今年度

定年退職教員

この春、お世話になった三名の先生方が定年を迎えられ退職されます。
在学期間中の思い出や、宮城教育大学の学生に対する思いを記していただきました。

卒業の春に



国語教育講座 教授
遠藤 仁

残す年限も片手ほどになると早いとは聞いていたが、まさにそんな感じだった。宮城教育大学には、平成四年十月から二十九年半にわたってお世話になった。夜間大学院の設置（平成六）、生涯教育総合課程の設置（平成八）と教員養成課程への一本化（平成十九）、附属図書館・附属中学校の改革等、常に人に恵まれ、温かく支えられたとの思いは強い。歩みを共にした

皆様に衷心より御礼申し上げます。忘れられないことが二つある。一つは、着任後しばらく、本学の定年は六十四歳だった。ある大物教授にその訳を問うたところ、宮教大はそこの地方大学とは違って格の高い大学だからだと真顔で一蹴された。大胆な改革や特色ある教育でその名を馳せたことは、隣の短大に勤務する私ですら承知しており、不思議と腑に落ちるところがあった。この先も自らの矜持するところは失ってほしくないと思う。もう一つは、会議で愚考を述べたら、尊敬するY教授によく調べて発言するようにたしなめられたことがある。軽薄な議論を戒めたもので、厳しくも温かな思いは身に染みだ。以後、開学以

来の資料を調べ尽くして考えることが仕事の原点となった。本学には、人を育む土壌がある。いつまでも継承してほしい。

顧みれば課題山積の卒業だが、これからは若い人たちに負けない意欲と好奇心、行動力をもって新たな世界に踏み出したい。幾多の困難を乗り越えてきた本学の未来が輝かしいものとなること、なによりも同窓会会員の皆様方へますますのご健康とご発展とを祈念しつつご挨拶に代えたい。



激動の五年半



保健体育教育講座 教授
佐藤 節子

九歳から十八歳にかけて仙台で過ごした後上京し、そのまま東京で生涯を終える予定でした。ところが、二〇一六年に母が亡くなり、父の面倒を見るために仙台と東京を往復する中、宮城教育大学でダンス指導教員を募集していることを知りました。応募したところ、思いがけず、採用の通知を頂いた次第です。

創立時から二十八年半勤めた埼玉県の女子短大の学生たちと年度途中の九月末に別れを告げ、慌てて荷造りをし、引越して来ました。しかし、学内の美化に力を入れていた前任校とは落差がありすぎました。黒電話やブラウン管テレビが部屋に鎮座するレトロな雰囲気味わっていきこうと腹をくくっていたところ、二〇二〇年に体育館、二〇二一年に五号館が改修されま



ダンス室での授業風景

した。そのため二〇一七年十月の着任から二〇二三年三月の退職までに六回の引越しをすることになりましたが、在任後半は美しい環境で働くことができました。一連の改修にご尽力くださった方々に心よりお礼申し上げます。

真面目で真摯に物事に取り組み学生たちからは、教師の在り方や教育問題について学ぶことができました。また、優しくて有能な教職員の皆様にも囲まれて忙しいながらも平穩に日々過ごすことができたこと、感謝申し上げます。

やっと慣れたところに退職だな、と着任前から覚悟していましたが、そのとおりの展開でした。しかし、思っていた以上の激動の五年半でした。今後さらなる改革を押し進めていく宮城教育大学の発展を祈念します。

宮教大の魅力



理科教育講座
助手

三品 佳子

私は、昭和五十一年「宮城教育大学中学校教員養成課程理科専攻」に入学いたしました。合格発表は、合格者名が一人一人手書きで書かれた大きな紙が一齐に二号館掲示板に貼り出されるという往年の光景です。

本学は全国的に有名で、遠く種子島からの入学生もいました。新潟出身のある学生は「地元の上越教育大より宮教の方が面白そうだったのだ」と言っていました。また、林竹二先生に憧れて宮教大を選んだという学生が多く存在したのが印象的です。学内はピラと立て看板であふれ、あちこちでサークル勧誘があり、熱気にあふれ、大学の最も大事な「自由な気風」を強烈に感じたことを憶えています。

多種多様な専門分野の教官によ

る魅力的な講義が受講可能な中、私は当時の名物先生・橋浦兵一教授の講義にすっかり魅せられ、先生の授業を次々と受講し、国文学の専門の授業、果ては橋浦研のゼミにまで参加し、先生ご退官後はお宅に時々お伺いしてご教示をいただくなど、ご他界されるまでの数十年にわたり珠玉の行き来が実現したことは、宮教大ならではのかけがえのない魅力であると思っております。

私は本学卒業後、他大学勤務を経て母校に勤務し、学生とのたくさん思い出ができました。学生は本当にかわいいです。大学を取り巻く情勢は大きく変化しましたが、私自身、本学卒業時そして現在も「宮教大に入学し四年間在籍して本当に良かった」と思っておりますので、そうした魅力的な本学の核の部分は変わらずにあつてほしいと願っています。



宮城教育大学 正面入口

令和5年度（第34回）同窓会総会案内（予定）

令和5年度（第34回）の同窓会総会は、下記の要領で開催されます。
皆様のご参加をお待ちいたしております。

記

〔日時〕 2023年8月5日(土)午後10時30分

〔会場〕 宮城教育大学

実行委員／平成4年度、平成14年度、平成24年度卒業生

事務局だより

昨年の今頃、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、一年経った今も終息の見通しが立っていません。世界がそんな混沌とした状況の中でスタートした二〇二二年度でしたが、対面授業が基本となり、学生たちの元気な声と明るい笑顔が徐々にキャンパスに戻ってきました。また、今年度から初等教育専攻、中等教育専攻、芸術体育生活教育専攻、特別支援教育専攻の四専攻からなる新課程がスタートしました。学生は教師という職業に憧れと希望を抱き、理想の教師に少しでも近づけるような充実した学びができるように、大学スタッフも熱意をもって指導やサポートをしていきたいと思えます。

さて、誌面内にもありましたが、三年ぶりに対面での同窓会総会を行うことができました。実行委員長 赤間浩司さんをはじめ、平成三年度卒業生の方と平成十三年度卒業生の方々の他、今回初めて在学生にも実行委員になってもらい、幅広い年代でチームを組んで四月から準備を進めてきました。初めて行うことばかりでしたが、学校経営・学級経営のプロたちが揃っていたので、話し合いも準備作業もトントン拍子で進んでいきました。八月五日当日は、県内の感染者数が増加傾向となり、どうなるかと思いましたが、卒業生二十八

名、学生十五名、計四十三名の参加で賑やかに行うことができました。今年度は平成四年度、十四年度、二十四年度の卒業生が幹事学年です。ぜひ準備から参加していただき、同級生との旧交を温めていただけたらと思います。

もう一つ新しい取組を紹介しました。宮教大同窓会のホームページとフェイスブックページを作成しました。今後はそこから新しい情報を発信していきます。特にフェイスブックは今の宮教大の様子を載せた記事を随時更新していきます。二〇二四年春開業予定の「新学生寮」の定点撮影写真も随時アップ中です。フェイスブックをやられている方はぜひアクセスをして、「いいね！」をクリックしていただけると幸いです。

最後になりましたが、同窓会活動は皆さまからの会費によって成り立っています。未納の皆さまにおかれましては、ご協力くださいますようお願いいたします。末筆ながら、同窓生の皆さまの日ごろのご支援に感謝いたしますとともに、皆さまのご安全ご健康を心よりお祈り申し上げます。

同窓会費納入先

郵便振替

022402-34558

宮城教育大学同窓会
同窓会費：八、〇〇〇円（終身会費）

恩師訃報

小金澤孝昭 名誉教授（人文地理学） 令和四年 六月二十一日
 小野 四平 名誉教授（漢文学/中国文学） 令和四年 十一月 六日
 大泉 勉 名誉教授（器楽） 令和四年 十二月二十四日
 高山 登名 名誉教授（美術講座） 令和五年 一月 八日
 が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

時代の変化に合わせて進化していく大学。大学の先進的な取組に驚き、同窓生であることを誇りに思いました。取材にあたり、多くの資料を提供してくださった施設課長の葛西聖仁様、施設企画係の犬石諒平様、インタビューにご協力いただいた安藤明伸先生、それぞれのお立場から大学、学生について真剣に考え、より良い宮教大を目指すためにご尽力いただいていることを強く感じました。ご協力に心より感謝申し上げます。5号館を始めとした大学の施設は研修や講座で使用できるよう、一般にも開放されているとのことでした。詳しくは施設課施設企画係へお問い合わせください。進化した大学に足を踏み入れていただければと存じます。

さて、多くの皆様の協力により、34号を発行するに至りました。本当にあ

りがとうございました。Webでの閲覧に移行し、本誌も時代に合わせた変化を遂げています。それでも同窓生へ情報を届けたい、つながりを持ちたいという思いは全く変わっておりません。ご感想などお寄せいただければ幸いです。次号もどうぞよろしく願っています。

編集長 早坂 美幸
(仙台市泉図書館勤務)

【編集委員】

橋本 俊一 (昭和 48 年度卒)
 末永 精悦 (昭和 53 年度卒)
 鈴木 朝二 (昭和 53 年度卒)
 平間 正信 (昭和 62 年度卒)
 加藤 良樹 (平成 6 年度卒)
 野中 映里 (平成 10 年度卒)
 近藤 ゆき (平成 13 年度卒)
 早坂 美幸 (平成 15 年度卒)
 千葉 廣 (平成 24 年度卒)

同窓会誌が Web ページに移行しています

第32号から同窓会誌はWebページの閲覧になりました。
 宮城教育大学Webページのメニューからご覧ください。

URL▶ <https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/yamaniarite/home>

